

JIS

UDC 629.768.5-253 : 629.114.791.001.4

D 6509

ロータリ除雪車—性能試験方法

JIS D 6509-1992

(2000 確認)

(2006 確認)

平成 4 年 6 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 42.3.1 改正：平成 4.6.1

官報公示：平成 4.7.3

原案作成協力者：社団法人 日本建設機械化協会

審議部会：日本工業標準調査会 自動車航空部会（部会長 佐々木 紫郎）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部機械規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 一1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

JIS D 6509 : 1992

ロータリ除雪車－性能試験方法
解 説

訂 正 票

位 置	誤	正
解説 6.6	この試験は、自然の積雪状態及び雪質において行う。	この試験は、自然の積雪状態及び雪質において行うことが望ましい。

訂正票とは、規格本体以外（解説ほか）に対する正誤を表します。

平成 19 年 12 月 3 日作成

白 紙

ロータリ除雪車—性能試験方法

D 6509 1992

Vehicles with rotary snow plough — Testing method

1. 適用範囲 この規格は、ロータリ除雪車（以下、ロータリ車という。）の性能試験方法について規定する。

備考 この規格の引用規格を、付表14に示す。

2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS D 0001、JIS D 0101及びJIS D 0102によるほか、次による。

- (1) ロータリ除雪車 ロータリ装置を装備し、除雪作業を行う自動車。
- (2) ロータリ装置 機械の回転運動によって雪をかき込み、投雪を行う装置。
- (3) 運転整備状態 燃料はタンク容量の $\frac{2}{3}$ 以上、冷却水、潤滑油、作動油の量などは、それぞれのロータリ車に規定された値とし、携行工具その他の附属品を装備し、調整部分は適正に調整して、乗車定員のうち除雪に必要な運転員及び助手が乗車した状態。
- (4) 除雪姿勢 ロータリ装置を地上に置き、通常の除雪を行う姿勢。
- (5) 走行姿勢 ロータリ車の走行に適するようにロータリ装置を最低地上高さ以上で、ロータリ車中央に水平に保持し、シュートを最小寸法に格納した姿勢。
- (6) 除雪能力 時間当たりの除雪体積又は除雪質量。除雪体積は、除雪された雪の除雪前の体積で表す。
- (7) 投雪距離 車体中心面から投雪された積雪の最高所までの距離(図1参照)。
- (8) 投雪幅 投雪されて帯状に落下した雪の幅(図1参照)。
- (9) 最大除雪幅 ロータリ車が1回進行することによって除雪することができる最大の幅(図1参照)。
- (10) ロータリ装置前面高さ 除雪姿勢において、除雪された雪がロータリ装置後方に逃げないようにした構造の上辺までの高さ(図1参照)。
- (11) ロータリ装置前面面積 除雪姿勢において、除雪された雪がロータリ装置後方に逃げないようにした構造の前面投影面積。
- (12) 残雪高さ 除雪後に残された雪の路面からの高さ。ただし、氷盤とみなされる面がある場合には、その上面からの高さ。
- (13) 運転視界 走行姿勢で、標準的な体格の運転員が座席から運転姿勢で見ることができるロータリ車周辺地面の範囲。